

市議会正副議長を改選

監査委など各委員を選任

市議会第1回臨時会が5月16日に開かれ、正副議長が改選されました。

新しい議長には細見勲氏(64歳)が、副議長には横須賀昭男氏(62歳)が選出され、議会議長の市監査委員には菱田明儀氏

(65歳)が選任されました。また臨時会では、議会運営委員会と各常任委員会の委員の選任も行われました。



細見勲議長



横須賀昭男副議長

市議会各委員会の構成は次のとおりです。(◎委員長、○副委員長以下50音順、▽敬称略)

- ▽議会運営委員会◎森川信隆○横山博、太田克彦、鷹野雅生、松島規久男、山田芳彦、山本邦夫
- ▽総務常任委員会◎小北幸博○巖博、田辺勇気、橋本宗之、細見勲、松島規久男、横山博
- ▽文教厚生常任委員会◎山田芳彦○森下由美、太田克彦、亀田優子、菱田明儀、森川信隆、山口克浩
- ▽都市環境常任委員会◎

市民委員を募集

行財政改革検討懇談会

市は、健全な行財政運営により、将来のまちづくりを確かなものとするため、第5次行財政改革実施計画

を平成23年4月に策定し、現在取り組みを進めています。実施計画の期間は3年間で、毎年改定しています。

改定に際して、実施計画の進捗状況を点検し、意見や提言をいただくために設置している「行財政改革検討懇談会」の委員を募集します。

八幡市 自治連合会

自治会や町内会、区などの市内49自治組織で構成する八幡市自治連合会の平成25年度の役員が、4月25日開催の幹事会において選出されました。(敬称略)

- ▽会長◎上原嘉昭(美濃山区)▽副会長◎小西慧一郎(長町樋ノ口連自治会)、植村辰男(きつつき自治会)、村井操(六区)▽

自主防災 推進協議会

5月22日、八幡市自主防災推進協議会全体会議が開催され、平成25年度の役員選出が完了しました。

赤川行男○鷹野雅生、岡田秀子、関東佐世子、山本邦夫、横須賀昭男

◆問い合わせ 議会事務局

役員が決定しました

監査◎河原崎進(下奈良区)、難波雄太郎(男山第二住宅管理組合)▽書記◎中村政夫(三区)、佐藤孝夫(男山長沢自治会)

◆問い合わせ 市民協働推進課

春の叙勲・褒章

市内から6人と1団体が受章

国や公共に対し功労のあった人を対象とする春の叙勲で、元八幡市議会議員の鷹野宏さん(八幡垣内山)に、旭日双光章が贈られました。また、社会福祉活動

をテーマにした800字以内の小論文に住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を記入のうえ、(〒614・8501市役所)政策推進課へ郵送または直接提出。

◆提出された小論文は返却できません。

▽締め切り 6月21日(金)必着

▽選考 小論文で審査

▽選任時期 7月(予定)

▽懇談会開催 7月(予定)

◆問い合わせ 政策推進課



公民館講座の様子(昨年7月28日親子電気教室、橋本公民館)

社会教育委員

市教育委員会は、社会教育の振興について広く市民の意見を反映させるため、市社会教育委員(公民館運営審議会委員兼務)を募集します。

社会教育に関心のある人の応募をお待ちしています。

◆問い合わせ 社会教育課

1日現在20歳以上70歳未満。市が設置している他の審議会等の委員は除く。

▽募集人員 2人(委員定数10人)

▽報酬 年間4万8千円

▽任期等 7月1日〜27年6月30日。任期中、年間6

回程度開催する会議に出席し、社会教育の振興や公民館事業などについて、意見を述べるとともに必要な調査・研究を行うなど、重要な役割を担っていただきます。

▽応募方法 申込書(社会教育課に備え付け)と「八幡市における今後の社会教育の進め方について」をテーマにした800字以内の小論文を(〒614・8501市役所)社会教育課へ郵送または直接提出。

◆応募書類は返却できません。

▽締め切り 6月14日(金)必着

▽選考・通知 提出された書類等を選考委員会で審査し、結果は全員に郵送で通知します。

◆問い合わせ 社会教育課

八幡市駅前交番

開所しました

八幡市駅前に市内5カ所目の交番が開所。5月7日から業務を開始しています。

火災・救急統計		
消防本部 ☎981-4119		
平成25年1月~4月累計()内4月分	去年同期累計	
火災出動	4件 (1件)	6件
火災以外の出動	63件 (18件)	51件
救急出動	1122件 (291件)	1178件
搬送人員	1068人 (282人)	1104人

小原さんが厚労大臣特別表彰

民生委員・児童委員として永きにわたり、社会福祉に貢献された小原榮子さん(橋本東刈又)が、厚生労働大臣特別表彰を受けられました。

「お茶見舞い」
八十八夜(5月2日)が過ぎ、茶摘みのシーズンです。初夏の陽気の中、恒例の「お茶見舞い」に市内の各製茶工場に伺いました。この時期は、皆さん気候の移り変わりを敏感に感じとり、日々茶園の様子をつかがいながらの茶摘みです。早朝より深夜まで大忙しです。摘んだ新芽は碾茶から、やがて抹茶になります。私は一足先に、この「やわたのお茶」を古老柿とともに一服楽しませていただきました。一杯のお茶を間に、それぞれが出会いを大切に、おもてなしを楽しみたいと常々私は思っております。日々の生活の中でもこの出会いを大切に、交流がたくさん芽生え、育てたいものです。

市民の皆さんと交流し、心の繋がりをおこなうことも大切にして、市政を推進してまいります。